

令和7年度

吉野川市立川島中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- バランスの取れた「確かな学力」の育成
- ・基礎基本の徹底と「できた」「わかった」が飛び交う授業づくり
- ・思考の過程を大切にしたい学びの場の設定
- ・自主的に目標を掲げた家庭学習の定着

校長

校長

学力向上推進員

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

- ①管理職・教職員による授業参観など学びの場の設置
- ②授業後における生徒の振り返り
- ③「めあて」「振り返り」等の明確化

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科で基礎・基本が身につけており、与えられた課題に対して真面目に取り組むことができる。 ○タブレット端末を活用して調べたり、まとめたりすることができる。 ●各教科で身につけた基礎・基本を他の教科で関連づけたり、活用したりすることに課題がある。	・習得した知識や技能をつなげて考え、他の学習の場面で活用することができる。 ・基礎基本的な知識・技能を身につけ、家庭学習において自主的、継続的に学習に取り組むことができる。	・「めあて」等を明確化し、授業後に学習内容の振り返りやまとめをさせる。 ・教員が相互に授業参観を行うなど授業力の向上を図る。 ・自主勉強ノートや各教科のプリント等を活用して、振り返りをさせることで家庭学習の定着を促す。		・「めあて」を明確化したことで、生徒たちが「何を学ぶのか」を常に意識して授業に臨むようになり、学習の目的意識が向上した。なお、振り返りについては課題が残った。 ・学年や教科の枠を超えた相互参観を実施し、授業後には短時間でリフレクションを行い、ICT活用術や机間指導のタイミングなどのノウハウを共有することができた。 ・家庭学習の定着については、授業と家庭のリンクが弱く、生徒自身の「自ら学ぶ意欲」を喚起するまでには至らなかった。	・「振り返り」の時間を確保し、ワークシートやタブレット端末を活用して、自分や他者の学びを共有し、生徒の探究心を向上させる。 ・教員の相互授業参観について、授業のすべてを見るのではなく、「導入の5分」や「終末の10分」だけをピンポイントで見ると、心理的・時間的な工夫・改善を行う。 ・授業の振り返りを、そのまま家庭学習のスタート地点とし、自主勉強ノートに反映させる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友だちの意見をしっかりと聞くことができ、自分の考えを発表したりすることができる。 ○課題解決のために互いに意見交換を行い、グループ活動やペア学習に意欲的に取り組むことができる。 ●複数の考えから新しい考えを創造したり、まとめたりすることに課題がある。	・自分の考えを具体的にわかりやすく伝えることができる。 ・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、自分の考えを深めたり、修正したりすることができる。	・ペアやグループでの学習を効果的に活用し、互いに協働して取り組む場面を設定する。 ・ノートやプリント、タブレット端末等のICT機器を効果的に活用し、自分の考えを表現できる機会を多く取り入れる。		・各教科でタブレット端末を活用したことで、互いに協働して取り組むことができた。 しかし、自分の考えを発信し、表現することはあまりできなかった。	・お互いの意見を的確に伝えることができるように、発表などの場面を多く設定する。個人のめあてを明確にし、自らの考えを深める手立てを考える。 ・学習課題を工夫し、生徒たち自身で考え、表現したことを適切に評価し、授業改善に努める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的な学習態度が定着しており、各授業に集中して取り組むことができる。 ○授業前の準備や各教科で与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自らの課題に対して友だちや教員の意見を受け入れ、その課題が解決できるよう計画を立てて実践することができる。	・「至誠ノート」を用いて目標達成のために行動目標を立てさせ、日常的にPDCAサイクルの確立を図る。 ・生徒同士が質問し合う機会を設け、教え合いができる機会をつくる。 ・学習の目的や学び方を伝え、家庭との連携を図りながら学習意欲の向上につなげる。		・授業や休み時間に、将来の夢や目標について、生徒同士で話し合う姿が多く見られた。 ・「至誠ノート」を活用した結果、学校評価アンケートにおいて、「自分でやると決めたことは、最後までやり遂げるようにしている」肯定群が88%と高く、主体的に学ぼうとする意欲を高めることができた。	・生徒たち自身で見通しを立てて、実行できるようになるための手立てを考える。 ・生徒同士がお互いに質問し合い、教え合いながら考えを深め、課題解決していく活動を行う。 ・「至誠ノート」の振り返りを効果的に行い、自身の成長を感じ、意欲的に取り組めるように計画を立てる。